TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

力の福音　妻と夫

エフェソの信徒への手紙 5:22-33

2023年12月16日 & 17日
余沢 武　牧師

I. はじめに

こんにちは。来週はクリスマス礼拝です。お友達を招待するのを忘れないように！

TBC は新しい建物と、もっと大きな礼拝堂を必要としています。そのため、2019 年9月にインパクト・ビルディング・プロジェクトを開始しました。ご存じのように、あと5年でこの建物は築70年になります。2023 年 12 月現在、このプロジェクトへの献金は、フェーズ1の目標額¥960,000,000 の 20.1%に達しました。皆さんの献金に感謝します。このプロジェクトになじみのない方はパンフレットをご覧ください。パンフレットにはビデオクリップのリンクも載っています。インパクト・ビルディング・プロジェクトに献金する場合は、「インパクト」と書いてある封筒を使うか、オンラインの場合は「インパクト」と指定してください。次世代の TBC に投資してくださり、ありがとうございます。

これまでエフェソの信徒への手紙から、イエス様を信じることで、私たちは「光の子」となることを学びました。私たちの光によって、この世の闇を暴露する者となるのです。しかしそのためには、私たちは聖霊に満たされていなければなりません。常に聖霊と話し、聖霊の声を聞き、聖霊に尋ね、従わなければいけません。そうすると私たちは1)喜びを他の人たちと分かち合い、2)イエス様を賛美し、3)いつも全てのことを神に感謝し、4)他者に従うようになります。

それからパウロは、この従うという行為が夫婦間、親子間、雇用主と従業員の間ではどう適用されるのかを説明し始めます。まずは祈りましょう。

II.　妻と夫

(1)　妻たち

エフェソの信徒への手紙 5:22-24 を開きましょう。
「22 妻たちよ、主に従うように、自分の夫に従いなさい。23 キリストが教会の頭であり、自らその体の救い主であるように、夫は妻の頭だからです。24 教会がキリストに従うように、妻もすべてにおいて夫に従いなさい。」

パウロは「妻たちよ、主に従うように、自分の夫に従いなさい。」と言っています。妻が聖霊に満たされているなら、つまり常に聖霊に話しかけ、聖霊の声を聞き、聖霊に相談し、聖霊に従っているなら、妻は主イエスに従うように、夫に従うのです。クリスチャンはみな他者に仕えるべきですが、この「服従」の特徴は、パウロが言うには、妻は夫と特別な関係でつながっているということです。「キリストが教会の頭であるように、夫は妻の頭である。」とパウロは言っています。頭という言葉は、権威やリーダーシップを含めた決定権を示唆します。つまり夫は、祈りをもって、自分の家族に最適な最終的判断を下す責任を与えられているのです。

これはスポーツのチームに似ています。キャプテンや監督には、どんなプレーをするかを決める責任が与えられています。その決定が必ずしも正しいとは限りません。でも責任が合が得られているため、一つのチームとして機能するために、みんなそれに従うのです。

ですからパウロは「妻もすべてにおいて夫に従いなさい」と言っているのです。ただし…
夫に言われたからといって、妻は罪を犯さなくてよい。夫に命じられても罪を犯すべきではありません。
「従う」ことは「劣性」や「沈黙」とは違います。妻は夫に提案をすべきです。
夫が妻に服従を強要できるということではありません。「従順」は自発的であるべきです。

(2)　夫たち

次にパウロは、夫たちが頭としてどの様に従わなければならないかを説明しています。

「25 夫たちよ、キリストが教会を愛し、教会のためにご自分をお与えになったように、妻を愛しなさい。

26 キリストがそうなさったのは、言葉と共に水で洗うことによって、教会を清めて聖なるものとし、27 染みやしわやそのたぐいのものは何一つない、聖なる、傷のない、栄光に輝く教会を、ご自分の前に立たせるためでした。」

キリストが教会を愛し、教会のためにご自分をお与えになったように、夫は妻を愛さなければなりません。

それはどんな風にでしょうか？私たちがイエス様を十字架に釘付けた時、イエス様は私たちに敵意を示しませんでした。イエス様は服従を要求しませんでした。イエス様は、私たちにご自分を与えられました。イエス様は「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか分からないのです。」と祈りました。ですから夫はこのように妻を愛さなければならない、と言っています。

パウロは、イエス様がご自分をお与えになったのは、私たちを「言葉、つまり福音」によって清めるためだったと言っています。私たちがイエス様の犠牲的な愛を見る時、私たちの罪が明らかにされ、神様に自発的に従うのです。そして、神様は私たちを聖く、責めるところのないものとされるのです。

夫はこのように妻を愛さなければなりません。たとえ妻が夫に敵意を示しても、夫は敵意をもって返したり、服従を要求してはいけません。夫は妻に自分を与え、祈らなければなりません。**「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか分からないのです。」**と。

それによって妻が福音を見るようになるのです。また妻たちはイエス様の犠牲の愛を経験し、イエス様によって罪が明らかにされ、イエス様に従い、聖く、責めるところのないものに造り変えられるのです。これが霊的なリーダーシップです。それだけではありません。

「28 そのように夫も、自分の体のように、妻を愛さなくてはなりません。妻を愛する人は、自分自身を愛しているのです。29 これまで、誰もわが身を憎んだ者はいません。かえって、キリストが教会になさったように、わが身を養い、いたわるものです。30 私たちはキリストの体の一部なのです。」

イエス様が、ご自分の命を与えただけではなく、私たちの必要を満たし、世話してくださっているように、夫も妻を愛し、自分の命を与え、妻の必要を満たし、大切にしなければいけません。

こんな話があります。妻が夫に言いました。**「あなた。あなたが私のためには死ぬのもいとわないのは知ってる。何度も言ってくれているから。でも死ぬのを待っている間に、お皿洗ってくれない？」**

夫のみなさん。妻のために自分の命を捨てられるのなら、妻の必要を満たし、ケアするためにできるほかのこともたくさん行うべきです。

私たち夫は、
妻と時間を過ごし、妻の話を聞き、妻の必要を満たすべきです。

妻と共に祈り、妻のために祈るべきです。

「妻の従順」も「夫の愛」のどちらも難しいものです。でも「妻の従順」にはさらなる努力が要求されます。妻はたいてい、自分の考えのほうが良いことを知っています。でも夫は聞く耳をもちません。妻はどうするべきでしょうか。

「妻の従順」について語る時、本当の問題は恐れであることがほとんどです。「夫の間違った判断に私が従ったせいで、家族が苦しむ羽目になったらどうしよう。それは誰の責任？そうなったら誰が私たちの面倒をみてくれるの？」という恐れです。

皆さんにお尋ねします:
私たちが神に委ねるとき、私たちを世話してくれるのは誰ですか。神様です。本当に？本当です！
イスラエルの民が、神様が権威を与えられたモーセに従った時、彼らの面倒を見たのは誰ですか。モーセだったでしょうか。マナや飲み水をもたらし、敵から彼らを守ったのはモーセでしたか。違います。神様です！
ダビデが、神様が権威を与えられたサウル王に服従した時、ダビデを守ったのは誰でしたか。サウル王でしたか。いいえ、サウルはダビデを殺そうとしていました。ダビデを守ったのは神様です！

妻が、神様が権威を与えられた夫に委ねるとき、妻とその家族を世話してくれるのは誰ですか。夫でしょうか。違います。神様です！

私が婚前カウンセリングで教えるとき、いつも女性に言います。「夫の考えのほうが良いから、それに従うのではありません。そんなことはありません。50%の確率であなたが正しいでしょう。夫に従うのは、夫を信頼するからではありません、神様を信頼するからです。」「妻の従順」は、妻が神様の忠実さを信頼して初めて可能になります。

そして夫のみなさん。私たちが家族の頭なのは、私たちが優っているからではありません。だからこそ私たちは妻の提案が必要なのです。妻の提案を尊重して採用していいのです。だって 50%の確率で、妻たちが正しく、私たち夫は間違っているのですから。もしいろんな決断をするにあたって、毎回毎回、自分の意見を通さないと気が済まないなら、あなたは自惚れの問題を抱えています。

(3) 秘儀

「31 こういうわけで、人は父母を離れて妻と結ばれ、二人は一体となる。」32 この秘義は偉大です。私は、キリストと教会とを指して言っているのです。33 いずれにせよ、あなたがたも、それぞれ、妻を自分のように愛しなさい。妻は夫を敬いなさい。」

結婚は「秘儀」と「キリストと教会」の象徴です。
「秘儀」という言葉は、「隠されていたけれど、今は明らかにされたもの」つまり「福音」を意味しています。結婚は、福音の象徴であるべきです。イエス様の犠牲的な愛とイエス様への服従を通して、イエス様と一つとなるだけではなく、イエス様の御性質と御姿を身に着けるのです。

同様に、夫の犠牲的な愛と妻の従順によって、夫と妻は一つとなるのです。夫と妻は、1つとなるだけでなく、共にイエス様の御性質と御姿を現します。

でも、ここに見逃しがちなカギとなる真理があります。もし妻が従おうとするだけでは、彼女は失敗するでしょう。また夫が愛そうするだけでは、彼は失敗するでしょう。忘れないでください。パウロは私たちに、「聖霊に満たされた」結果として、私たちがするべきことを教えているのです。

私たちが常に聖霊と話し、聖霊の声を聞き、聖霊に罪を告白し、聖霊に助けを求め、神の御言葉に従う。聖霊とのそういった関係が持続されて初めて、私たちは「愛」と「従順」の関係を実践できるのです。これを実現するには、神様の前に静まる時間を毎日持ち、常に祈ることが必要です。

しばしば、夫は妻に服従を強制しようとします。同様に妻は、言葉や感情を使って、夫を無理やり降伏させようとします。これらの行為は、自らの結婚を破壊するだけです。

先週、聖霊に満ちた人たちは常に聖霊と話し、聖霊に耳を傾け、それによって自らの罪深さと、自分がどれだけ主の御意志(「神の御性質を身に着けた、神の子」となること)から遠く離れてしまっているかに気がつくようになるという話をしました。

そうして謙虚になり、「神の御性質」を身に着けることを目標として、聖霊に満ちた人は他の人たちに仕えたいと思うようになるのです。誰かに怒鳴られて、怒鳴り返してしまったら、相手を責める代わりに、自分が神の御性質を表せなかったことを認めます。そしてすぐに聖霊に相談し、罪を告白し、助けを求め、御言葉に従います。そして相手に会って、許しを求めます。

同様に、聖霊に満たされている夫と妻は、相手が声を荒げて、自分も怒鳴り返してしまったら、相手を責める代わりに、自分が神の御性質を表せなかったことを認めます。そしてすぐに聖霊に相談し、聖霊に耳を傾け、罪を告白し、助けを求め、御言葉に従います。そして、妻あるいは夫の所に行って、許しを求めます。そうする過程で、妻は夫に従い、夫は妻を愛することを学ぶのです。

神様に栄光を帰す結婚生活の鍵は、神様を中心とすることです。聖霊によって満たされることす。私たちが常に聖霊と話し、聖霊の声に耳を傾けて初めて、神様の恵みによって、神様が私たちに望まれる結婚を経験することができます。だからこそ、毎日の神様との時間と祈りが結婚生活やそれ以外の何においても欠かせないものなのです。

クリスチャンではないあなたも、イエス様の助けが必要です。イエス様に罪を告白し、許しを願い、自分を変えていただくように祈りましょう。神様は聞いてくださいます。神様の愛を、あなたの人生と結婚に反映させましょう。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 201

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg5123jp

★クラス 301
自分の賜物発見クラス
1月28日（日）1:00pm - 5:00pm
参加条件: クラス 101&201 を修了した方

★クラス 401
人生の使命を発見する
2月18日（日）1:00pm - 5:00pm
参加条件: クラス 301 まで修了した TBC 教会員

https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu

奉仕者募集中！

1. 日本語字幕オペレーター
月 1～各礼拝の時間の日本語字幕のページを矢印キーで押していく作業。コンピュータースキルはいりません。
スキル：英語を聞いて日本語がどこを話しているかわかる程度の英語力

2. 日本語訳字幕作成
月 1～土曜日 16 時に TBC にて作業します。Mac でプロプレゼンターというソフトで作成しますが、1, 2 回のトレーニングで簡単に覚えられます。作成後、土曜日 19 時の礼拝の日本語訳字幕オペレーターもお願いしています。
スキル：英語を聞いて日本語がどこを話しているかわかる程度の英語力

3. 週末礼拝メッセージ翻訳
1 か月半に 1 度くらいのペース
自宅での作業になります。
英語のメッセージ原稿を日本語に翻訳します。
スキル：英語と日本語が堪能な方

4. 日本語訳レイアウト＆印刷（女性募集）
月 1～土曜日 16 時に TBC にて作業します。
MS Word を使用してひな形に入れてレイアウトし印刷します。
スキル：MS Word の簡単な操作ができる方。英語のスキルは必要ありません。

*TBC の教会員であることが必須です。

連絡先：hiromik@tokyobaptist.org